

慶應義塾大学大学院 文学研究科 修士課程

史学専攻 日本史学分野

3つのポリシー

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

教育目標

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、日本史学の専門研究を通じて学則に従って修了要件を満たし、修士論文審査に合格することのできる人材の育成を目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、修士（史学）の学位を授与する。

資質・能力目標

- (1) 日本史学の分野において、通時代的な歴史像の把握の下に研究領域全般に関する専門知識を修得し、古文書などの史料から歴史情報を引き出すための史料批判・読解などの優れた能力を具えるとともに、引き出した歴史情報を分析して新たな史実を実証的に掘り起こし、その成果を論理的に構成して日本語や外国語で発表することができる。
- (2) 日本史学もしくはその関連分野の研究を内容とする日本語の修士論文を執筆し、さらに修士論文のテーマに関連する領域については包括的で高度な専門知識を有し、その領域の研究に貢献をすることができる。
- (3) 生のデータの信頼性を確認した上で、それらを分析して論理的妥当性が認められる推論を導き出し、万人の納得を得られるような形でまとめて発表する優れた能力を身につけるとともに、日本の歴史に対する理解を通じて養った、人間の営みと社会の動きに対する幅広い視野と鋭い洞察力をあわせもつことで、高度なリテラシーを具えた研究者、教育者、実務家として、社会に対する独自の貢献ができる。
- (4) 日本史学の専門研究を通じて社会の中で人文学を学ぶことの意義を自覚し、自ら設定した目標を達成し、様々な社会問題を適切な方法で解決することができる。

教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

教育課程の編成

文学研究科史学専攻日本史学分野（修士）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、「日本史特殊講義」、「日本史特殊講義演習」、「古文書学特殊講義」から構成される教育課程を体系的に編成する。

教育課程の実施

この教育課程の編成のもと、史料読解、史料調査方法などの教育法を組み合わせ教育を実施する。

修士論文執筆のために、三田史学会日本史部会における報告を推奨し、専攻に所属する教員を含む日本史学の研究者たちからの意見を研究に取り入れることを可能にする。

学修成果の評価方法

本史学専攻日本史学分野の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われるほか、各種アンケートや調査等を含めた定量的・定性的、直接的・間接的な指標を用いて評価される。具体的には、①学生による授業評価、②休学や退学の状況などを用いる。

修士論文は主査1名、副査2名の計3名の専攻に所属する教員が審査する。修士論文の面接審査に際しては、原則として専攻の全教員が立ち会うものとする。

資質・能力目標と教育内容との関係

- (1) 日本史学の分野において、通時代的な歴史像の把握の下に研究領域全般に関する専門知識を修得し、古文書などの史料から歴史情報を引き出すための史料批判・読解などの優れた能力を具えるとともに、引き出した歴史情報を分析して新たな史実を実証的に掘り起こし、その成果を論理的に構成して日本語や外国語で発表することができる。
→日本史学ならびに古文書学を対象とした少人数の特殊講義ならびに特殊講義演習科目群を開講することで、研究を展開するために必要な専門知識、史料批判と史料読解・分析の能力、思考力および議論構成力を養成する。また、これらを通じて、データの質の吟味、実証的な分析・推論、成果のプレゼンテーションなどの優れた技能の修得を促す。
- (2) 日本史学もしくはその関連分野の研究を内容とする日本語の修士論文を執筆し、さらに修士論文のテーマに関連する領域については包括的で高度な専門知識を有し、その領域の研究に貢献をすることができる。
→修士論文の執筆を可能とするため、指定された指導教員が中心となって個別論文指導を行い、研究テーマについての知識を深めるとともに、高度な研究能力と論述力を養う。
- (3) 生のデータの信頼性を確認した上で、それらを分析して論理的妥当性が認められる推論を導き出し、万人の納得を得られるような形でまとめて発表する優れた能力を身につけるとともに、日本の歴史に対する理解を通じて養った、人間の営みと社会の動きに対する幅広い視野と鋭い洞察力をあわせもつことで、高度なリテラシーを具えた研究者、教育者、実務家として、社会に対する独自の貢献ができる。
→専門分野の研究を通じて、史料批判と史料読解・分析の能力、課題発見能力、議論

構成力を養成するために、データの質の吟味、実証的な分析・推論、成果のプレゼンテーション等の卓越した技能の修得を促す。

- (4) 日本史学の専門研究を通じて社会の中で人文学を学ぶことの意義を自覚し、自ら設定した目標を達成し、様々な社会問題を適切な方法で解決することができる。
→専門分野の研究を通じて、専門分野における知識を吸収し、解明すべき問題を自ら見出し、その問題を自ら解決できるよう促す。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

求める学生像

- (1) 卒業論文執筆や専門科目の履修等を通じて自身の専門領域についての理解を深め、日本史学の領域全般についての基礎知識を有している。
- (2) 大学院において、何をどのような方法で研究したいのかという研究計画について自ら考え、日本語でまとめることができる。
- (3) 日本史の史料を正確に読むことができる基礎的な読解力、学術的内容を日本語で論ずることができる基礎的なアカデミック・ライティングの能力を身につけている。
- (4) 研究成果を発表するための基礎的な外国語の能力を有している。
- (5) 修士課程修了後の社会人、研究者、教育者としてのキャリアについて、積極的に考えている。

選抜の基本方針

このような入学者を幅広く受け入れるため、一般入試により選抜を実施する。

(1) 一般入試

第1次試験の入試科目は専門科目および選択外国語の2科目とし、第2次試験は面接のみとする。

学部における勉学の成果としての卒業論文を踏まえて、今後研究を継続するために必要な日本史の専門分野における基礎知識を修得しているか否か、日本史の史料読解の能力を有しているか否か、および将来的に研究成果を発表していくための基礎的な外国語の能力を有しているか否かを試すものとする。